

新潟医療福祉大学 同窓会誌  
Niigata University of Health and Welfare An Alumni Bulletin

OH

伍桃・

特集

# はじめのいっぽ



No.  
16

2020.3

## CONTENTS

P.1～P.10 特集「はじめのいっぽ」 P.11～P.12 学長よりメッセージ P.13～P.14 第7回連携研修会 P.15～P.16 同窓会活動 P.17 連携総合ゼミ P.19～P.20 強化指定クラブ活動報告 P.21 大学院と仕事の両立 P.22 同窓会広報



## 「成長」への はじめのいっぽ

不安、弱さ、怖さはあるけど、  
全部無視です。  
常に前しか見ていない。

カンボジア  
海外法人 In crea Earth Co., Ltd.(インクリーアース)CEO  
東京  
株式会社 Mufasa 代表取締役

**古莊 健一 さん**

(医療情報管理学科 2019年卒)

### 現在の仕事・ 取り組んでいること

カンボジアと東京に会社を立ち上げ、カンボジアではCEO(最高経営責任者)、東京では代表取締役として活動しています。主な活動拠点はカンボジアで、不動産事業・貿易事業・ホテル経営・旅行代理店を展開しています。特に不動産事業においてはカンボジア首相親族や、ガバメント(政府)の管轄の元、国家事業などに傍らですが関わらせて頂いています。

また先日世界遺産アンコールワットで行われた、国の名誉あるセレモニーに首相親族のご厚意で特別に参加させて頂きました。(外国人での参加は異例との事)

周りには首相親族、王族、政府関係者など国のトップの方々と同席する機会を頂き感無量でした。



アンコールワットでのセレモニーの一枚 カンボジア首相親族一同

### その道に「一步」 踏み出したきっかけ

カンボジアの子どもたちが「明日生きられるか」という貧困生活をしている事実をテレビで知り、何かできることはないか、と感じたことがきっかけです。大学1年生の時に初めて単身でカンボジアに行き、貧困地域の子どもたちに食料や衣料品を届けました。この時からカンボジアのある孤児院に個人的な支援を始め、今も支援を続けています。その他、沢山の方々からの支援の輪が繋がり現在その孤児院は国連のバックアップを受けています。実はカンボジアの会社は、大学を卒業した日に設立しました。初めてカンボジアに行き、実際に目にした現状からより具体的にカンボジアに貢献できる方法は何かを考えながら、色々と会社を設立する準備に取り組み、自身にとって節目の日に立ち上げようと考えていました。それだけカンボジアの子どもたちの実情は自分自身を突き動かす原動力となりました。大学に在籍していた4年間はほぼ、この支援に向けた活動資金収集のために奔走していました。



スラム街の子供たち

### これまでの苦労や葛藤

現在の仕事もタフなことは多々ありますが、正直学生時代が一番大変でした。同級生は資格を取得し就職活動をしている反面、私自身は資格取得もせず就職活動も全くしてない…周囲の状況がめまぐるしく変化していく中、「このまで大丈夫なのだろうか…」という思いがよぎりました。当時はかなりストレスを感じ、葛藤の繰り返でした。しかし、そこから気持ちを切り替えることができたのは、自分の信念を貫くべきだと感じたからです。【お金や損得勘定ではなく、自分がしたいと思ったことにフォーカスする。やるか、やらないかではなく、"やるか" "すぐやるか"]。また大学入学当時から、世界に出て自分の視野を広げ、感性を磨きたいと思っていました。あくまでもこれは私個人の価値観ですが、「一度しかない自分の人生を、就職して生涯年収2億円というものにはしたくない」と。この思いがあったので、学生時代の苦労や葛藤を乗り越えることができたと感じます。

### 今後、二歩目、三歩目を踏み出すためのビジョン

会社の発展を実現するためのアイディアはたくさんあります。これを具体化していくために大切にしていることは、経営者としての責任を全うしつつ、自身の事業に関わる人達の心に火を点けることです。また人生最期の瞬間に「一点の後悔なく、本当に幸せだったな」と思えるものにしたいです。そのため取り組みたいことはたくさんあり、何を一番に進めいか、は正直迷うところなのですが…将来的には全部形にする、これしかないです(笑)。その結果として、カンボジアの教育に貢献できるような取り組み、例えば孤児院の子どもたちが無償で通えるような学校の設立をしれっと実現したいです。

### 同窓生・在学生に一言

『一生懸命』ただこの一言に尽きます。過去や昨日には戻ることはできないので、一日一日、その瞬間をどのように生きるか、これを踏まえて全力投球することが本当に大切であると実感しています。そしてなにより、自分の決断に自信を持つこと。そこに答えが必ずあります。



孤児院の日本人オーナー後藤勇太さん



## 現在の仕事内容

長岡西病院に勤務して、主に整形・中枢・内科の疾患で入院されている方や外来で来られる方のリハビリを行っています。また、それに関わる書類の作成や他職種でのカンファレンス、退院に向けた家屋訪問などの業務もあります。

## その道に「一步」を踏み出したきっかけ

母親が看護師で老人ホームの仕事場に連れて行ってもらったり、家で点滴をする場面を見たりしていました。そのため、日常的に「医療」をする機会があって、母親のように患者さんを助ける仕事がしたいと思い、幼い頃から医療職に興味を持っていました。

しかし、具体的にどの職業に就こうかは高校生の時まではっきりと決まっていませんでした。

そんな中、祖父の怪我をきっかけに理学療法士という職を知り、入院をして身体的にも精神的にも弱った祖父に優しく声をかけながらリハビリを行っている理学療法士の方に憧れ、この道を選びました。

## 現在、充実していること・楽しいこと、反対に苦労していること

担当していた患者さんの運動機能が向上し、できなかったことができるようになった時はとても嬉しく、仕事が楽しいと感じます。また、「和田さんのおかげで良くなった」、「和田さんが毎日来てくれるのが嬉しい」と言ってもらえた時は「私のことを頼りにしてくれている」と思えて、私もすごく嬉しかったです。

苦労していることは、患者さんの運動機能や運動能力が低下している原因を考察し、適切な治療を行うことです。知識・技術不足で

必要な評価が不足しているため、視野を広く持つて治療を行っていきたいです。その他に、予後予測をして目標設定することにも苦労しています。情報収集が不足していることがあります。



## 「理学療法士」としての はじめのいっぽ

### 「和田さんのおかげで良くなった」 の一言がすごく嬉しい

長岡西病院 理学療法士

**和田 沙也夏 さん**

(理学療法学科 2019年卒)

るため、画像、他部門、カルテなど様々なところから情報を収集し、それを元に考察できるようにしたいです。

まだ力不足な点が多いですが、「どのような治療をしたらしいか」、「退院に向けてどのような支援が必要か」などを日々考えながら勉強しています。

## 今後、二歩目、三歩目を踏み出すためのビジョン

今は先輩方からアドバイスをもらいながら治療を進めている状態で、書類の作成などもチェックをしていただいている段階なので、まずは仕事を一人でこなせるようになることを目標として頑張っています。4月には後輩も入職するので、少しでも後輩へアドバイスができるように知識や技術を学んでいきたいと思います。

そして、今は病院での勤務ですが、私の病院では訪問リハビリや通所リハビリも行っているため将来的には退院後に在宅で生活されている方のリハビリにも携わりたいです。その際は、「入院前がどういう状態であったか」、「入院して治療を行っている間の回復具合はどうだったか」というのが大きな鍵となってくるので、そういった部分をしっかり見極めながら治療を行っていきたいです。リハビリの目的、目標が入院の患者さんとは異なるため、様々な視点から物事を考えられる理学療法士になりたいです。

## これから「一步」を踏み出す 同窓生へメッセージ

みなさん働く先是それぞれだと思いますが、この大学で経験したこと、学んだことを糧に頑張ってください。職は違えど、同じQOLセンターとしてそれぞれの道で技術を高め、共に成長していきましょう。みなさんの活躍を応援しています。





## 「看護師」としての はじめのいっぽ

○○だけじゃもったいない!!

長野市内病院 看護師

**有賀 楓子 さん**

(健康スポーツ学科 2016年卒)

### 現在の仕事内容

現在は混合病棟で小児や成人など様々な年代の方の看護をしています。呼吸器を付けている患者さんもいらっしゃるので毎日緊張感を持っています。

具体的な仕事内容としては、食事介助や入浴の援助など身の回りのお世話をしたり、点滴や採血・与薬といった医療行為や血圧・体温測定などのバイタルサインチェックを行っています。

また、例えば患者さんの脈が速かったら痛い所が無いか、お腹が張ってないか、呼吸が苦しくないかなど全身の状態を見て、普段と違った様子が無いか確認しています。

### その道に「一歩」 踏み出したきっかけ

大学入学前から「看護師になりたい」と思っていましたが、大学では健康スポーツ学科を選びました。陸上競技の走り高跳びに打ち込んでいて特待生として大学に入ったので、「まずは強化部で陸上競技やりたい」と思って、大学4年間はグラウンドで汗を流しました。その後、神奈川県の専門学校で3年間学んで看護師になりました。

私は幼い時に入院したことがあるのですが、その時に担当の看護師がとても優しく親身に接してくれました。その経験から「私も優しくてかっこいい看護師になりたい!」と思って看護師を志しました。

大学でも英語の授業や連携基礎ゼミなどで他学科と関わる機会があり、看護学科の友達ができたことで看護の話や実習の話が聞けました。そういった環境から「看護師になりたい」とより強く思われてくれました。

### 現在、充実していること・楽しいこと、 反対に苦労していること

自分のことだけではなく、周りの看護師の動きも見て助け合いながらチームで働くようになったことが充実しています。楽しいことは同期との飲み会などです。同期や仲間に恵まれたと思っています。

苦労していることは、夜勤や準夜勤が始まったことです。夜勤帯は眠さとの戦いで対策としてコーヒーをたくさん飲んでいます(笑)あとは仮眠の時間にしっかり寝ることです。寝るのはすごく得意で10分、15分あれば寝られます(笑)

また、学生時代に習わなかつた単語など働いている中で分からないうることがたくさん出てきて、少しづつ調べて毎日が勉強です。大変ではありますが、勉強は元々好きで分からないうことが分かってくるのが嬉しいです。

看護師は走りっぱなしで、座る時間は本当に短いです。「看護師ダイエット」みたいな感じです(笑)看護師と陸上競技は本質的には近いところもあるような気がして、自分で言うのも何ですがどちらも向いていると思います。大学で4年間しっかり陸上競技できたのが本当に大きかったです。

### 今後、二歩目、三歩目を 踏み出すためのビジョン

私自身、国体に出たり、障害者国体のコーチを務めたりした経験があります。そのなかで今



度は選手を支える側で2027年に地元長野で国体があるのでその時にサポートできたらと思っています。怪我の処置などは看護と違う分野あまりやったことがないので今はちょっと自信無いですが、これからもっと様々な疾患の勉強をして熱中症や怪我をした人にしっかりとケアができる看護師になりたいです。

また、患者さんを見ていると、ご飯を食べている時にむせてしまう方がいます。首の角度を変えてあげるなど唾液が出て食べやすくなる少しの工夫はしておりますが、患者さんにもっと安全に美味しく食事をしてほしいと思っているので、摂食嚥下の認定看護師資格を取ってキャリアアップしていきたいです。

### これから「一歩」を踏み出す 同窓生へメッセージ

私が色々やっていたというのもあるのですが、「○○だけじゃもったいない!!」と伝えたいです。

大学での4年間も私自身、寝てる時間ももつたないくらい色々な経験をしてすごく楽しい4年間だったので社会人になっても様々なことに挑戦していきたいです。



## 「仕事・子育ての両立」の はじめのいっぽ

### 自分のペースで夢に到達することが大切!

学校法人 北都健勝学園 新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻  
理学療法士・講義・講義補助、研究活動、地域活動

**長島 裕子 さん**

(理学療法学科 2007年卒)

#### 現在の仕事内容・活動内容・ 子育ての状況について

現在、新潟リハビリテーション大学理学療法学専攻の助手をしております。仕事内容は、講義、講義補助だけではなく、主に専攻内業務としては実習関連や学生支援、入試広報等の仕



間が少ないので、申し訳ないなと思う反面、夏季休暇や冬期休暇等、長期休みは以前の職場より一緒に過ごせるので、良かったのかなと思っています。

#### その道に「一歩」 踏み出したきっかけ

もともと将来の選択肢の一つとなればいいなと思い、大学卒業してすぐに大学院に行きました。その後、結婚・出産もあり、少し子育てに重点をおきたかったので、子育てのしやすい職場を選んで就職しました。子どものいる生活にも慣れてきたころからもっと勉強したい、スキルを上げたいと思い、恩師に相談したところ、いろいろアドバイスをいただき、現在の職に転職しました。家族も応援してくれたのもきっかけです。

#### これまでの苦労や葛藤

日々、学生と接することで、刺激を受けています。一人一人理解度が異なるため、どう伝えたらわかるのか、今の学生は何を感じているのかを考え、同じ授業でも教え方を変えるなど私も学生と一緒に成長をしていかなくてはと感じています。また、自分とは異なる考え方を



する学生の意見を聞くのはとても勉強になります。さらに、小学校の体験授業で小学生と関わったり、転倒予防教室などで地域の高齢の方と関わったりとあらゆる世代の方と関わりを持つことができて楽しいです。日々、業務には追われてはいますが、充実していると感じています。今の楽しみは子どもの成長と学生の成長を感じることです。ゼミの生徒から報告や相談をされると嬉しく思います。苦労していることといえば、なかなか自宅では仕事ができないことです。帰って家のことをしているとあっという間に12時を過ぎてしまって・・・。日々、体力勝負だなと感じています。

#### 今後、二歩目、三歩目を 踏み出すためのビジョン

まず、認定理学療法士をとることが直近の目標です。あとはサルコベニア・フレイル指導士や認知症予防専門士の資格も取りたいと思っています。そして、もっと地域にでていきたいと思っています。また、一番下の子が小学校に上がるころには博士課程を取るために大学院に行きたいとも考えています。将来的にはこれからも教育の仕事に携わりたいと思っています。

#### これから「一歩」を踏み出す 同窓生へメッセージ

女性には選択肢がたくさんあると思います。なので、迷うことが多いと思います。私も出産した直後は、なかなか理学療法士として前に進めず、焦りや不安がありました。逆に、子どもには具合が悪いのに一緒にいてあげられない、休みのとき一緒にいてあげられない、行事に行ってあげられない、など申し訳なく思うこともたくさんありました。きっとこれはこれからもずっとあると思いますが・・・。でも、自分のペースで一歩一歩前に進んでいこうと思っています。その姿を子供たちにもみていて欲しいと思うので、頑張って

いるのだと思います。

子育てと仕事の両立ができるかわかりませんが、周りの人に支えてもらいながらこれからも頑張っていこうと思います。夢に到達するペースは人と違っていいと思います。到達できることが大切だと思います。なので、子育てしたい人は子育てして、仕事したい人は仕事して、子育てと仕事の両方をしたい人は両方すればいいと思います。自分のペースで!





## 「海外」での はじめのいっぽ

Mahidol University(タイ)在学中  
**大淵 拓真 さん**  
(理学療法学科 2019年卒)

### 現在の活動内容

卒業後すぐにフィリピンへ渡りUniversity of Santo Tomasで科目履修として単位取得し、それと同時に、英語力の向上を目的に様々な活動をしました。現在は、タイのMahidol Universityの大学院にて在学中。

### その道に「一步」を踏み出したきっかけ

University of Santo Tomasと新潟医療福祉大学は協定を結んでおり、単位取得と専門知識を含んだ英語力向上の協力を得ることができたためです。

大学在学中に、理学療法以外のことと同時に勉強しながら、新たな道を探していたことが現在の道につながっていると思います。

### 現在、充実していること 楽しいこと、 反対に苦労していること

フィリピンの大学では、英語学校とは違う大学レベルの英語力が求められるため、苦労はありますが、望んだ状況にさらされているため満足しています。授業以外でも、多くの現地学生や留学生との交流もあり、自然と視野は広がりました。

今後は、今まで自分が得た知識で世界と戦える武器を作るのが楽しみです。

### 今後、二歩目、三歩目を踏み出すためのビジョン

一步を踏み出せばその後は歩き続けるだけなので景色でも楽しみながら好奇心に従って、歩いていこうと思います。

今後は、理学療法士の知識を他の分野に応用していきたいです。現在考えているのは、薬物中毒患者に対する治療に理学療法の知識を応用することを考えています。その後、さらに理学療法を多くの分野に適用させて、我々の需要を高められたら人生楽しめそうです。



### これから「一步」を踏み出す 同窓生へメッセージ

一步踏み出したのならある程度は歩き続けられると思います。ただ、問題は疲れた時や不都合な状況に直面したときだと思います。そこで、自分の力が試されます。最終的に再び一步を踏み出す限りは、何度も立ち止まてもいいと思います。ただし、休むことに慣れないでください。新たな一步を踏み出すことがどんどん難しくなります。助けを借り、誰かと一緒にでもいいので歩き続けることが出来れば、誰も知らないような面白い所に行けると私は考えています。



### 現在の仕事内容

かねてより海外で働くという目標があり、大学卒業後すぐにカナダに渡航しました。語学はもちろんですが理学療法も含め英語で学び直しています。日本の理学療法士免許はカナダでは認められないため、現在は理学療法士のアシスタントとして働いています。カナダのミシサガという町にあるクリニックで、実践的な理学療法を学びつつ実際に患者様へのリハビリをカナダの理学療法士とともに行なっています。

### その道に「一步」を踏み出したきっかけ

本学在学時に海外研修に参加した経験がかなり大きいです。初めは海外に行けるのも大学生の間ぐらいだからと漠然とした理由で参加しました。海外の病院・リハビリ施設を見学させていただくと、国によって文化・慣習に大きな違いがありました。リハビリに求められるものが異なるため、それがリハビリの実施方法に大きな影響を与えており、非常に興味深いと思いました。また同様に、4年次に参加した連携総合ゼミにおいて、アジアを中心とした海外大学の学生達とともに仮想事例について議論し、改善案を作成する機会もありました。多職種連携が重要視されるなか、多国籍のチームで様々な意見が交わされたことは、非常に有意義で成長に繋がる機会でした。こうした経験から多様性がある環境に身を置きたいと思い、そういう特徴のあるカナダに行くことを決めました。



### 現在、充実していること・ 楽しいこと、 反対に苦労していること

カナダは民族や人種の多様性を尊重している多民族国家です。それは医療・リハビリの分野にも反映されており、東洋医学や西洋医学、様々な知識や技術を取り入れて行われています。また理学療法士自身の開業も認められているため、街の至るところにクリニックが開かれています。市民が自由に選んでクリニックに行けるため、このクリニックもより良いリハビリテーションサービスが提供できるよう努力しています。そういった背景から理学療法の領域だけに留まらずより広い領域を学ぶことができます。それは理学療法士として患者様に対してなにができるかだけではなく、患者様のQOLを向上させるために真に必要なことは何なのか見極めることに繋がります。

一方で多民族国家ならではですが、民族や宗教の違いから患者様に対する接し方や治療方法の違いを配慮することが必要なケースがあるので苦労することもあります。

### 今後、二歩目、三歩目を踏み出すためのビジョン

理学療法の考え方は、時代とともに少しずつ違うもの、新しいものに変わっていくと思います。どの選択が最も良いかはリハビリ提供者および享受者によって多種多様です。様々な経験や学びを通して、異なるカタチの理学療法・理学療法士の在り方を模索していきたいです。そのためにもひとつの概念に囚われずに広い範囲のことを学べる環境に身を置いていきたいです。

### これから「一步」を踏み出す 同窓生へメッセージ

まだまだ経験は浅いですが、それでも海外に



## 「海外」での はじめのいっぽ

Clarkson Sports & Physiotherapy  
Physiotherapy Assistant  
**小島 健太 さん**  
(理学療法学科 2019年卒)

身を置くとどうしてこんなに日本とは違うんだろう、こうすればもっと良いのにと思うことがたくさんあります。現地の人たちと違いについて話し合い、時には自分の意見を提示してみたり、相手の意見を取り入れてみたりすると自分の考えの幅が広がっていく感じます。新しい変化を受け入れることは簡単ではありませんが、どんな環境にいたとしてもその変化を乗り越えていくことは自分の成長に繋がると信じています。より良いものを提供できる人材になれるようにともに頑張りましょう。



2010年より、本学の学長を務めてくださった山本学長が3月を以って退職されます。  
同窓生へメッセージをいただきました！



自分のためにやんな。  
次に自分と異なる考え方を受け入れてみな。  
そうすればワンチームになれるよ！

新潟医療福祉大学学長  
**山本 正治**

## 1. ワンチームが 新語・流行語大賞に

2019年の新語・流行語大賞に「ONE TEAM」が選ばれました（以下ワンチーム）。アジアで初めて開催されたラグビー・ワールドカップで、日本チームは世界8強入りを果たしましたが、そのチームを支えたスローガンがワンチームでした。選手自身の自主性を重んずる精神、自ら考え行動する精神がワンチームにまとめられています。

新潟出身で笑わない男・稻垣啓太選手は、スコットランド戦で勝利した後、「ワンチームの

文化に触れて、国民ともつながった瞬間であった。」と述べています。ワンチームという言葉は、日本チームだけの言葉から国民全体を巻き込んだ言葉に発展し、空前のラグビーブームを引き起こしました。

## 2. 身近な問題としての ワンチーム

ところで、このワンチームですが、私たち自身に置き換えた時にはどうなるのでしょうか。一例として、これから皆さんが働く職場をワンチームとした場合、あなたの役割を考えてみます。

皆さんは考え方やライフスタイルが異なる

人々と一緒に働くことに直面します。そこで自分自身の立ち位置に悩むことになります。これら的心配事を各論的に言及することはさておき、ここではその背景に存在する本質的な問題についてお話をします。それは心の持ち方にかかっていると言っても過言ではありません。

この問題を解決するためのヒントをズバリ2つにまとめました。第1に自分らしさを發揮しゴールを目指すことです。第2に自分とは異なる多様な考え方やライフスタイルを尊重して、一緒にゴールを目指すことです。そう考える理由をこれからお伝えします。

## 3. 先人の言葉から学ぶ

スポーツ界や経済界でチームづくりに関わった2人の先輩の言葉を紹介します。1人目は宇津木妙子さんです。2004年アテネ・オリンピックでソフトボールの監督でした。本学で2016年に開催した新潟医療福祉学会で特別講演をされており、私たちにとって身近に感ずる方です。

宇津木さんは次のように言っています。「自分を信じて自分のためにやんな。それがチームのためになるんだよ。」と。チームワークについての本音を語っており、私の好きな言葉です。2人目は土光敏夫さんです。土光さんは1965年に東芝の社長、1974年には経団連会長として財界のトップに立った方です。その方が次のように言っています。「一人一人の長所が異質であればあるほど、チームワークの相乗効果は大きい。」まさにワンチームの本質を予言していたと思われる言葉です。

お2人の言葉は、一見すると一般的な社会

通念を覆す逆説的な言葉のようですが、人間の心の深淵を知り尽くした本質を語っているように思えてなりません。

## 4. 何から実践すべきか？

同窓生の皆さんに対して何から実践すべきかについてお伝えします。結論から先に言いますと、先ずは新潟医療福祉大学卒業生としてワンチームとなることです。ワンチームになるためには、建学の精神で示された「優れたQOLサポーター」になれるべく信じ、先に述べた2人の先輩の言葉に従ってみることです。先ずは、自分の為に自分らしくチームワークを実践してみてはいかがでしょうか。次に、上司や同僚の色々な考え方を尊重し、その長所を受け入れてみてはどうでしょうか。それぞれを専門用語で表現すれば、自己肯定感を持つことや多様性の尊重です。両者は決して矛盾するものではなく、ゴール設定（優れたQOLサポーターになること）が

明確なら、職場でワンチームになります。

先ずはこの2つを守り、さらに自己実現意欲を常に持ち続けて行動すれば、人生のある段階で「地域社会に十二分に貢献できたのは、新潟医療福祉大学を卒業したお陰」と感ずるときが来ると私は信じて疑いません。

結びとして、次の言葉を同窓生の皆さんに贈ります。先ほど紹介した宇津木さんの表現を真似るとすれば、それは「自分のためにやんな。次に自分と異なる考え方を受け入れてみな。そうすればワンチームになれるよ！」です。



著書「マイウェイ学長の記録」  
(新潟日報事業社)

第7回

# 連携研修会

## 超高齢社会を支える医療・介護 その新しいカタチ 考えてみませんか これからのは在宅医療・介護

2025年には3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という「超高齢社会」を迎えます。地域で完結できる在宅医療・介護・予防・健康づくりの重要性がこれまで以上に問われていく中、医療と福祉専門職との連携について考えていきました。



- 
- 
- 
- 
- 

2013年より開催され、今回で7回目の開催となる「連携研修会」が2019年11月2日(土)新潟医療福祉大学にて開催されました。「連携研修会」とは、新潟医療福祉大学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上(スキルアップ)の実現を目的とした同窓会の中心を担う事業です。卒業教育・生涯教育を充実させるとともに、専門職として活躍している同窓生どうしの新たな連携方法を模索し、相互の親睦を深める機会を提供しています。

第1部

## 特別講演

### 地域における在宅医療・介護の連携のあり方 ～医療と福祉専門職の連携を中心に～

本学 社会福祉学科長であり、新潟市在宅医療・介護連携推進協議会委員「市民の理解を深める分科会」座長を務めておられる渡邊先生より、専門職間の「連携」について様々な角度からわかりやすくご講演いただきました。「医療・介護のネットワークができればそれでおよしではない。生活を基盤とし、地域の対象者が暮らしやすくなるための支援でならなければならない。」というこれからのは在宅医療・介護を考える上でのポイントと、それを実現するためチームアプローチしていく必要性などをわかりやすく教えていただきました。



第2部

## 同窓生による活動報告および多職種間連携についてのパネルディスカッション

研修会第2部では、社会福祉士・保健師・理学療法士・義肢装具士の4職種5名の同窓生より、現在の勤務地における「多職種間連携」の実例を報告してもらいました。



パネラ

早見 栄治 様(社会福祉学科 2005年卒)  
新潟県厚生連 小千谷総合病院 勤務

中村 真治 様(社会福祉学科 2005年卒)  
(社福)紫雲寺加治川福祉会  
新発田北地域包括支援センター 勤務

石井 まりな 様(看護学科 2017年卒)  
新潟市地域包括支援センター山の下 勤務

田子 篤史 様(義肢装具自立支援学科 2012年卒)  
(株)はとふるあたご 勤務

長村 史朗 様(理学療法学科 2005年卒)  
医療法人社団昌美会 西村ハートクリニック 勤務



### 参加者の声

渡邊先生の講演を聞いて良かったです。医療・福祉・介護の社会的な流れや現状を知る場としても良い機会でした。同窓会が連携をテーマに研修を行っていることが素晴らしいと思います。ありがとうございました。(同窓生より)

卒業生の活躍している姿を知って、私も自分のしている仕事を頑張らうと思えた。一人の人を支援するのに、多くの方との連携が必要なところだと改めて、特別講演やパネルディスカッションを通して感じた。(同窓生より)

医療・福祉・介護の社会的な流れや現状を知る場としても良い機会でした。(在学生より)

同窓生固有の活動について、職場の業務を超えた面などで興味深かったです。それぞれの立場でニーズに耳を傾けようとする熱心さを感じました。(パネラーより)

雰囲気が温かく居心地が良かったです。パネルディスカッションの内容も良く勉強になりました。参加して良かったです。(在学生より)

### 渡邊先生のコメント



連携研修会により同窓生達が自らの母校に来ること自体とても意味があると思います。連携および連携教育、チームアプローチ、QOLサポーターの育成は、本学の理念であり、常に専門職としての拠り所になると思います。これからも連携研修会を継続していくたいものです。

### 研修会の総評



高齢社会を迎える現代において、病院中心の医療から、地域で完結できる在宅医療・介護をテーマに企画しました。特別講演では、社会福祉学科 渡邊学科長より「連携」について学びを深められました。同窓生による活動報告では、病院や地域で働く現場での経験や課題と共に、本学で培ったQOLサポーターとして様々な職種と関わりながら活躍されていることを知れて、とても刺激を受けました。フロアからも活発なディスカッションができる有意義な時間を過ごせました。今年度は外部にも広報を行い、在学生・同窓生以外の一般参加者もいらっしゃいました。今後とも卒後教育の一環を担えるように、本事業を継続していきたいと考えております。

コーディネーター 岡村 聰之  
新潟医療福祉大学同窓会 首都圏支部副支部長

10月27日

## 第37回全日本大学女子駅伝 対校選手権大会の応援に行ってきました！

「第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」(通称: 杜の都駅伝)が10月27日(日)に仙台にて行われ、本学陸上部女子が出場するにあたり、同窓会で観戦ツアーを企画し応援に行ってまいりました。

今回のツアーアイデアは初の試みとしてバスを借りての移動。スタート地点の仙台市陸上競技場に到着するとスタート前にも関わらず多くの応援の方が全国から集まり、さすがは大学女子駅伝日本一を決定する大会だと実感しました。徒歩や電車にて移動しながら観戦していましたが、6名の選手とそれを支えるスタッフが一丸となってタスキをつなぐ姿に感動しました。

大会終了後、選手・スタッフに同窓会よりマフラータオルの贈呈を行い、応援者全員で記念撮影をした後、新潟への帰路につきました。大会中、他大学のOB・OG組織が選手を熱心に応援・支援している姿を数多く見かけました。本学においても歴史と伝統を築いていくよう、同窓生からのご支援を引き続きよろしくお願ひいたします。



大会終了後、選手から応援者に対して報告会

19	14	中央大	2 14 06
20	16	拓殖大	2 14 31
21	22	兵庫大	2 14 42
22	9	札幌国際大	2 14 54
23	18	新潟医療福祉大	2 20 21
24	11	石巻専修大	2 21 38
25	24	環太平洋大	2 24 23
26		東北学連選抜	2 24 02

好 第37回 全日本大学女子駅伝対校選手権  
大健闘の順位だと思います。  
1人1分縮めていけば次の順位が近づいてきます



今年のメンバーは1年生が多くたので来年以降期待ですね



選手、スタッフ、応援に駆け付けた  
陸上部員と共に撮影



同窓会マフラータオルで  
ポーズをとってくれました



国家試験・資格試験 “合格祈願” “大願成就”  
クリアファイル寄贈

自分を信じて夢の舞台へ！  
踏み出せ！夢の一歩

今年も、国家試験・資格試験を受験する在学生の皆さん  
の合格と大願成就を祈願し、同窓会より合格祈願・  
大願成就グッズを贈呈しました！

クリアファイルには前年度に卒業した同窓生から、後  
輩たちに向けたメッセージが添えられており、夢や目  
標が叶うようにとの願いが込められています。

## 同窓会を開催しました

2019年9月15日(日)、作業療法学科6期生同窓会を行いました。卒業から約10年が経ち、各々仕事や家庭があるなかで、県内外から12名が集合しました。久しぶりの再会でしたが、すぐに学生時代の雰囲気に戻り、作業療法士としてだけでなく、父・母となった近況などを報告しながら楽しい時間を過ごせました。思い返せば、4年間同じ目標に向かい、机を並べて「作業療法」を学んだ時間がいかに貴重で充実したものだったのか気付かされ、本学本学科の結束力を再確認できました。

2020年は卒業から10年かつ、新潟県で日本作業療法学会が開催されます。学会日に合わせた同窓会の開催を約束し、皆それぞれの日常へ戻って行きました。



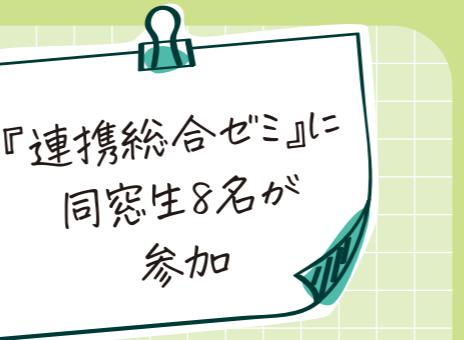
同窓会を開催しませんか？

学科同窓会開催にあたり助成金を活用ください。同窓会では、学科同窓会の開催を積極的に応援しています！卒業後〇周年という節目だけではなく、「〇〇学科〇期生同窓会」といった同期会など、母校を卒業した仲間たちとの交流会を開催しませんか？！1人1000円同窓会より助成金がおれます！開催のご相談は、同窓会支援室(dosokai@nuhw.ac.jp)までご連絡ください！



**【参加者一覧】**

熊木 彩華さん（理学療法学科卒 2016年卒／特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター 所属）  
高根 和希さん（理学療法学科卒 2016年卒／獨協医科大学病院 所属）  
星 雄大さん（作業療法学科卒 2016年卒／新潟県立十日町病院 所属）  
渡邊 貴博さん（作業療法学科卒 2010年卒／新潟大学医歯学総合病院 所属）  
岡村 聰之さん（健康栄養学科卒 2005年卒／埼玉医科大学病院 所属）  
斎藤 成美さん（看護学科卒 2018年卒／新潟大学医歯学総合病院 所属）  
能登友紀恵さん（看護学科卒 2016年卒／黒部市民病院 所属）  
清水 建弥さん（社会福祉学科卒 2017年卒／つばめ福祉会特別養護老人ホームさわたりの郷 所属）



2019年9月2日(月)～9月6日(金)に開催された「連携総合ゼミ」に、今年も同窓生が授業サポートとして参加しました。具体的な症例をもとに学科混成グループで支援策を検討している在学生たちに、専門職としての経験やアドバイスを伝え大変好評でした。次年度も9月2日(水)に開催予定です。当日、ご協力いただける同窓生からの連絡をお待ちしております。(同窓会支援室:025-257-4500)



卒業生（同窓生）の参加認知度が向上していることが良かった。

参加してみて良かった点は他職種連携という事で横の繋がりを非常に感じたという事です。

海外からの学生の参加グレープでは、通訳の先生がいてくださって助かりました。

# ツール オブ プロフェッショナル Tool of Professional

激務の日々を過ごす医療従事者にとって欠かせない、「相棒」とも言える仕事道具。  
そんなプロフェッショナルが日々大切にしているツールをご紹介します。

社会医療法人 桑名恵風会 桑名病院  
訪問リハビリテーション事業所 作業療法士 阿部 和樹さん（作業療法学科2005年卒）



## ▶ バイタル測定セット (血圧計・聴診器・体温計・パルスオキシメーター)

訪問リハビリはご利用者様の健康状態の確認から始まります。病院や施設などの多職種が在職する環境とは異なり、基本的に1人での訪問となります。そのため、「バイタル測定」はご利用者様の健康状態や体調変化などを客観的に判断する上で重要な指標となります。実際に訪問リハビリ中に具合が悪くなり、バイタル測定を始めとした総合的なアセスメントにて病院受診を勧めた結果、そのまま入院に至った事例も経験しています。訪問先での緊急時にも、バイタル測定を基本とした病状観察からのアセスメントし落ち着いて対応できるように自己研鑽しています。



## 勤務先の紹介

当院は脳神経外科を中心、循環器内科・消化器外科・整形外科などの急性期医療を主にしていますが、回復期病棟や地域包括ケア病棟に加えて在宅部門まで担うケアミックス型が特色的病院です。当事業所は当院に併設されており、東区全般、北区・中央区の一部を中心に訪問しています。訪問リハビリテーションは理学療法士や作業療法士がご自宅などに訪問し、住み慣れた場所で自分らしい生活を送られるようにリハビリテーションの立場から支援しています。具体的には生活面のリハビリや家庭ができる自主トレーニング指導やご家族への介助指導、住宅改修や福祉用具のアドバイスなどを実施しています。



## 仕事の流れ

- ①朝礼(訪問件数の確認、事務連絡など)
- ②午前の訪問リハビリ業務(1～3件)
- ③お昼休憩
- ④午後の訪問リハビリ業務(1～3件)
- ⑤カルテ記載、事務作業、関係機関への報告・連絡・相談等

## 同窓生へのメッセージ

ご利用者様によって障がいの程度や後遺症などは様々ですが、「その人らしい生活」の支援に携わることができる訪問リハビリでの作業療法に大変やりがいを感じています。一方で、ご利用者様のニーズによっては作業療法士の専門性以外の知識(歩行分析、下肢装具の調整、嚥下評価・訓練等)も求められるため、各領域の専門職に助言を求めながら日々試行錯誤して働いています。在宅領域では、

医療保険下のリハビリテーション以上に多職種連携・協同が欠かせません。そのため、作業療法の専門性を発揮しつつ在宅支援に関わる全ての職種が、ご利用者様の目標に対して同じ方向で携われているかを意識しながら支援してもらいたいと思います。

# 強化指定クラブ活動報告



## 男子サッカーチーム

矢村健(アルビレックス新潟/J2)喜岡佳太(AC長野バルセイロ/J3)がJリーグへ入団内定を決め、本学初のプロサッカー選手が誕生いたしました！

今年度から、社会人チームが北信越フットボールリーグ2部へ参戦し、全勝優勝で終え、1年で1部昇格を決めました。全国社会人サッカー選手権では北信越地区代表として初出場し、全国ベスト16の結果を得る事ができました。

### [2020年度大会日程(予定)]

- 3月～5月 新潟県サッカーチーム選手権大会
- 4月～11月 北信越大学サッカーリーグ
- 4月～9月 北信越フットボールリーグ
- 5月 全日本サッカーチーム選手権大会1回戦
- 6月 総理大臣杯北信越大会
- 8月 総理大臣杯全日本サッカートーナメント
- 10月 全国社会人サッカーチーム選手権大会
- 12月 全日本大学サッカーチーム選手権大会



## 女子サッカーチーム

2年振りの皇后杯本戦出場を果たし、2回戦へ進出を果たしました。また、なでしこリーグ2部ASハリマアルビオンに米里ひなた、増田玲那が入団内定しました！池田玲奈は、AC長野バルセイロへの入団を果たしました！

### [2020年度大会日程(予定)]

- 4月～9月 チャレンジリーグ
- 4月～8月 北信越女子サッカーリーグ
- 9月 全日本女子サッカーチーム選手権大会北信越大会
- 10月 全日本大学女子サッカーチーム選手権大会北信越大会
- 11月 全日本女子サッカーチーム選手権大会
- 12月 全日本大学女子サッカーチーム選手権大会



## 男子バスケットボール部

今年は昨年出場を果たしたインカレへ連続出場とはならず、悔しいシーズンとなりました。佐藤誠人が、トライアーヴィング岡山(B.LEAGUE B3)に特別指定選手として加入することが決まりました！本学4人目のBリーガー誕生です。



## 女子バスケットボール部

北信越大学バスケットボール春季リーグ戦を12年連続12回目の優勝を果たし、西日本学生バスケットボール選手権大会ではベスト16と昨年を上回る成績を残しました。また、4年振り11回目のインカレ出場を果たしました。



### [2020年度大会日程(予定)] 男女共通

- 5月 笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ戦
- 6月 西日本学生バスケットボール選手権大会
- 7月 全日本バスケットボール選手権大会新潟県代表決定戦
- 9月 全日本バスケットボール選手権大会1次ラウンド
- 10月 北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選
- 12月 全日本大学バスケットボール選手権大会

## ダンス部

全日本高校・大学ダンスフェスティバルにて特別賞(主題にふさわしい斬新的な動きの発見に対して)受賞し、4年ぶり3回目の受賞作品となりました！この受賞を自信にし、連続受賞、そして、富山、秋田、新潟でのコンペティションでも受賞を目指していきます。

### [2020年度大会日程(予定)]

- 8月 全日本高等学校・大学ダンスフェスティバル(神戸)
- 9月 アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ
- 12月 秋田モダンダンスコンクール／ワールドダンスコンペティション in ニイガタ



## 水泳部

ユニバーシアード日本代表に深澤舞、田中優弥が選ばれ、メダル獲得の快挙を果たしました！インカレでは女子200m平泳ぎで深澤舞が優勝し、2年連続インカレチャンピオンが誕生しました！また、女子総合7位と創部15年目の快挙を達成しました！

### [2020年度大会日程(予定)]

- 4月 日本選手権水泳競技大会兼 東京オリンピック競技大会代表選手選考会
- 6月 ジャパンオープン(50m)
- 7月 中部学生選手権水泳競技大会／OWSカレッジカップ
- 9月 日本学生選手権水泳競技大会



## 陸上競技部

学生個人選手権大会男子走り高跳びで渋谷蒼が優勝し、本学3人目の全国優勝者となりました。北日本学生陸上競技対校選手権大会では、女子が初の総合優勝を飾りました！女子長距離では8年連続全日本大学女子駅伝に出場し、昨年を上回る結果で終えることが出来ました。

### [2020年度大会日程(予定)]

- 5月 北信越学生陸上競技対校選手権
- 6月 日本陸上競技選手権大会
- 7月 全日本大学駅伝対校選手権大会北信越地区予選会  
全日本大学女子駅伝対校選手権大会北信越地区予選会  
北日本学生陸上競技対校選手権大会
- 9月 日本学生陸上競技対校選手権大会
- 10月 全日本大学女子駅伝対校選手権大会
- 11月 全日本大学駅伝対校選手権大会



## 硬式野球部

関甲新学生野球連盟春季1部リーグ5位、新人戦優勝、秋季1部リーグ4位、今年度から始まったAutumn Cupベスト4という結果で終えました。秋季リーグでは白鷗大学から勝点を奪う試合を展開し、充実のシーズンとなりました。

### [2020年度大会日程(予定)]

- 4月～5月 関甲新学生野球連盟春季1部リーグ戦
- 6月～7月 関甲新学生野球連盟新人戦
- 9月～10月 関甲新学生野球連盟秋季1部リーグ戦
- 11月 Autumn Cup



## 同窓生も応援へ行こう！

4月1日～8日に開催される日本選手権水泳競技大会に、在学生と共に同窓生も出場します！

応援よろしくお願いします！





## Editor's Note

編集後記

令和最初の伍桃である本号は、元号のように一歩を踏み出した同窓生を特集記事でご紹介いたしました。それぞれの道でプロフェッショナルを志した同窓生が希望を胸に令和という時代を力強く駆け抜けていく姿が楽しみです。  
そして、1万人に迫っている同窓生にとって新時代が実り多いものとなるよう願っています。 役員 金内一晶

## 各種変更手続き

現住所、苗字の変更や送付不要のご連絡は、右記QRコードまたは本会ホームページ(会員情報住所変更届出)よりご変更の手続きをお願いします。  
新潟医療福祉大学同窓会支援室 Mail dosokai@nuhw.ac.jp



お問い合わせ先

**新潟医療福祉大学同窓会** 新潟県新潟市北区島見町1398番地 新潟医療福祉大学事務局内 同窓会支援室 Tel 025-257-4500 Mail dosokai@nuhw.ac.jp